

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300448		
法人名	特定非営利活動法人ひかり		
事業所名	グループホームなの花		
所在地	佐賀県鳥栖市桜町1424-7		
自己評価作成日	平成26年4月1日	評価結果市町村受理日	平成26年9月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者で認知症である人の入居施設ということで、高齢者介護技術はもとより、認知症ケアにおいても高いレベルの知識と技術が必要とされるため内・外部研修への積極的参加等を通して日々努力している。さらに、「暮らし」の場であるため、認知症であっても「自分らしく」暮らしていける家として支援している。また、高齢者であるため多くの持病を抱えておられる場合があるので、日々の体調変化に目を配り健康管理に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念として地域貢献活動にも積極的に取り組まれ、隣接する駅の美化活動等は開設時より行っておられる。地域での周知度も高く、法人全体で地域との関わりを大切にし、秋祭りに地域の方を招いたり、地域のお祭りに参加したりと相互の交流が図られている。入居者の要望や希望をかなえ、生きがいにつながるよう個別の支援にも力を入れ、『自宅じゃないけど、なの花もよかね。』と思ってもらえるホーム作りを目指されている。一人ひとりが自分らしく暮らしていけるよう、管理者を中心に職員全体で日々努力されているところである。また、今年度から母体施設より理学療法士がホームを訪問し、より専門的な訓練が受けられるよう、医療ケアの充実にも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(北苑)	自己評価(南苑)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を常に念頭に置き、全職員で実践できるように日々研鑽している。	理念を意識し、実践できるように心がけている。	日々のケアの実践を通して周知できるよう、管理者を中心に取り組まれている。また、ホーム内の目のつく所に理念を掲示したり、会議を通して職員全体で意識の統一を図る等の工夫もされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事、外部ボランティア、ご家族面会等を通じて地域との交流が図れるようにしている。また利用者の希望、要望に即して対応している。	行事、外部ボランティア、ご家族面会等を通じて地域との交流が図れるようにしている。また利用者の希望、要望に即して対応している。	ホーム前の道路掃除や草取りなどを一緒にしたり、日頃から地域との交流が図られている。また、駅前の花壇作り、ホームの秋祭り等、地域との交流行事も積極的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービス、認知症サポーター講座、関連医療施設での健康講座等にて地域への認知症の理解や支援を深めている。	共用型デイサービス、認知症サポーター講座、関連医療施設での健康講座等にて地域への認知症の理解や支援を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度のペースで会議を開催している。サービス状況や地域での役割等意見交換を通し、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1度のペースで会議を開催している。サービス状況や地域での役割等意見交換を通し、サービスの向上に活かしている。	市や地区の老人会会長、区長、民生委員等の出席のもと、定期的開催され、情報の交換や意見の収集に努められている。まだ、家族の定期的な参加には至っていない。	今後、家族への参加の促しにも工夫をすることで、さらなる地域密着型のサービスの充実に努められることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム協議会の事務局となっているため、日頃より介護保険課、介護保険関係者全般についても情報交換などの協力体制を構築している。	部会や外部研修の機会を通してサービスの充実を図るべく意見交換や協力体制が構築できるようにしている。	日頃から市や地区の広域連合との連携が図られている。研修への講師派遣の協力や、認知症のサポーター研修等の取り組みも、共に計画されているところである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修会等で基本的な知識を学び、ケアの実践に活用している。やむを得ず行う場合はマニュアルに沿い、ご家族、職員と協議し改善にむけた取り組みを行っている。	外部研修や勉強会を通じて身体拘束に対する正しいケアを習得し、実践に活用している。	県や市主催の研修に参加したり、日頃から身体拘束とは何か、身体拘束がもたらす弊害等についても理解を深めるよう努力されている。現在、安全を優先し、ベッド柵の4点拘束が家族同意のもと行われている。	さらなる研修等により、職員間での意識の差をなくし、今後も定期的なモニタリングを継続しながら、拘束解除へ向けて取り組まれる事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	公的機関からの研修や関係資料を基に、基本的な知識を習得している。また、特に言葉の虐待について職員全体で意識統一を図っている。	公的機関からの研修や関係資料を基に、基本的な知識を習得している。また、特に言葉の虐待について職員全体で意識統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(北苑)	自己評価(南苑)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	公的機関からの研修や関係資料を基に、基本的な知識を習得している。また、職員ミーティングにて理解を深める努力を行っている。	公的機関からの研修や関係資料を基に、基本的な知識を習得している。また、職員ミーティングにて理解を深める努力を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結前、または改定等の際は十分に説明した上で双方が理解、納得できるようにしている。また認知症ケアではご家族の協力が必要不可欠であることを充分せつめいしている。	契約の締結前、または改定等の際は十分に説明した上で双方が理解、納得できるようにしている。また認知症ケアではご家族の協力が必要不可欠であることを充分せつめいしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望に対しては「個別対応記録」「個別対応実施記録」という書式を作成し、常に対応できる体制を構築している。ご家族に対しては面会、電話の際にサービスに対する意見を交換している。	利用者の要望に対しては「個別対応記録」「個別対応実施記録」という書式を作成し、常に対応できる体制を構築している。ご家族に対しては面会、電話の際にサービスに対する意見を交換している。	毎月の便りや面会時には、日頃の報告と共に、意見や要望が聞き取れるよう努められている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや申し送りの際に意見等を反映し、利用者主体の施設づくり、また職員がやりがい、誇りを持って働ける体制を構築している。	定期的なミーティングや申し送りの際に意見等を反映し、利用者主体の施設づくり、また職員がやりがい、誇りを持って働ける体制を構築している。	定期の会議や申し送り時を中心に、意見を聞く場を設けられている。また、日頃からコミュニケーションをとり、意見や要望が言い易いよう、信頼関係の構築に努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善、労働管理を最優先に考え、整備に努めている。また定期的な意見交換が行えるように努めている。	処遇改善、労働管理を最優先に考え、整備に努めている。また定期的な意見交換が行えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受講する機会を設け、個人の総合的なスキルが向上できるよう支援するとともに、研修記録等に残し、いつでも振り返りができるようにしている。	内外の研修を受講する機会を設け、個人の総合的なスキルが向上できるよう支援するとともに、研修記録等に残し、いつでも振り返りができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会、部会の中で情報交換はもちろんのこと他施設に出向き見学や意見交換、情報共有できる機会を持っている。	協議会、部会の中で情報交換はもちろんのこと他施設に出向き見学や意見交換、情報共有できる機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価(北苑)	自己評価(南苑)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの段階から情報収集に努めている。また受容と傾聴の精神で日々のケアから関わりを持ち、信頼関係の構築に努めている。	アセスメントの段階から情報収集に努めている。また受容と傾聴の精神で日々のケアから関わりを持ち、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接や担当者会議の場において家族の要望や意見等をサービスに取り入れるケアプランの説明、ケアの実践を実施している。	初回面接や担当者会議の場において家族の要望や意見等をサービスに取り入れるケアプランの説明、ケアの実践を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階でご本人、ご家族の状態を見極め今現在必要としているサービスの優先順位を検討し、支援している。	アセスメントの段階でご本人、ご家族の状態を見極め今現在必要としているサービスの優先順位を検討し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの特性を活かし、生活場面に寄り添い、不安や悩みを解消し、安心して生活が送れるように支援している。	グループホームの特性を活かし、生活場面に寄り添い、不安や悩みを解消し、安心して生活が送れるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人だけではなく、ご家族の要望や意見をサービスに反映できる介護計画を立案し、協力体制を相談しながらケアの実践に努めている。	ご本人だけではなく、ご家族の要望や意見をサービスに反映できる介護計画を立案し、協力体制を相談しながらケアの実践に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	社会資源を活用し、これまでの馴染みのある生活が維持できるように努めている。	これまでの生活がどのようなものだったのか情報収集に努め、社会資源を活用し支援できる体制を作っている。	馴染みのラーメン店での食事、行きつけの床屋での散髪、墓参りや仏壇の掃除等、入居者がこれまで大事にしてきた人や場所との関係が途切れないよう、支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や日々の生活の中で関係構築が行えるような支援とご本人の性格、生活歴を鑑みて職員が介入支援することで馴染みのある関係が出来ている。	行事や日々の生活の中で関係構築が行えるような支援とご本人の性格、生活歴を鑑みて職員が介入支援することで馴染みのある関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価(北苑)	自己評価(南苑)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自立出来るまで回復され自宅へ帰られた方、死去され退去された方またはそのご家族に対し必要な相談、助言ができる趣旨を説明している。	自立出来るまで回復され自宅へ帰られた方、死去され退去された方またはそのご家族に対し必要な相談、助言ができる趣旨を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別対応記録、実施記録に記載し対応している。また、日々の状況を把握した上で、気づき、訴えに対し職員間で情報を共有して、その気持ちに寄り添える支援を実践している。	個別対応記録、実施記録に記載し対応している。また、日々の状況を把握した上で、気づき、訴えに対し職員間で情報を共有して、その気持ちに寄り添える支援を実践している。	入居者の言葉を記録に残し、そこから本人の思いや要望を把握するよう工夫されている。思いや意向の把握が困難な場合も、家族からの情報や本人の表情等に注意し、気持ちに寄り添うよう努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴や馴染みのある暮らし等が継続できるように情報収集に努めている。また、必要に応じてそれまで利用されていた事業所、医療機関に対して情報提供を依頼し経過を把握している。	今までの生活歴や馴染みのある暮らし等が継続できるように情報収集に努めている。また、必要に応じてそれまで利用されていた事業所、医療機関に対して情報提供を依頼し経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者本位のサービスを念頭に置き、現状の把握に努めている。残存機能は最大限活用していただき、見守る体制はできている。また記録に正確に残し、把握と観察に努めている。	利用者本位のサービスを念頭に置き、現状の把握に努めている。残存機能は最大限活用していただき、見守る体制はできている。また記録に正確に残し、把握と観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議等でご本人、ご家族、職員、他職種と連携し生活の質の維持、向上ができるよう各々の立場から意見を出し合い、介護計画の立案に努めている。	担当者会議等でご本人、ご家族、職員、他職種と連携し生活の質の維持、向上ができるよう各々の立場から意見を出し合い、介護計画の立案に努めている。	モニタリングや評価をふまえ、担当者会議が開かれ、計画が立案されている。定期的見直しや随時の見直しも実施され、職員間での計画の周知に努め、プランに基づいたケアを実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過記録や業務管理日誌、申し送りノートを活用し、職員間で切れ目のないよう情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別経過記録や業務管理日誌、申し送りノートを活用し、職員間で切れ目のないよう情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対して現実性、客観性を踏まえ検討している。全職員には初めから困難と捉えず、どうしたら実現できるのかを第一に考えるように指導している。	様々なニーズに対して現実性、客観性を踏まえ検討している。全職員には初めから困難と捉えず、どうしたら実現できるのかを第一に考えるように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価(北苑)	自己評価(南苑)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントの段階にてどのような社会資源があるのか情報収集に努め、より良い生活が送れるように支援している。	アセスメントの段階にてどのような社会資源があるのか情報収集に努め、より良い生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご家族、ご本人様と医療面の支援について話し合っている。できる限りの医療体制を主治医と相談しながら適切な連携を図っている。	原則的には希望を尊重し、関係性を大切にしている。	入居者や家族の希望に添い、これまでのかかりつけ医や協力医のもとで、適切な医療が継続して受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況の変化や日々の観察においての気づきに対し、正確な情報、状況を伝え、常に介護と看護が連携できる体制を構築している。	状況の変化や日々の観察においての気づきに対し、正確な情報、状況を伝え、常に介護と看護が連携できる体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会や電話連絡の際に常に情報交換を行い、双方の情報を共有できるよう関係づくりに努めている。	面会や電話連絡の際に常に情報交換を行い、双方の情報を共有できるよう関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、ご本人の意向を最大限尊重し、可能な限りのケア、医療を実践している。また他職種との緊密な連携にて様々な場面に対応できるよう体制を強化している。	ご家族、ご本人の意向を最大限尊重し、可能な限りのケア、医療を実践している。また他職種との緊密な連携にて様々な場面に対応できるよう体制を強化している。	契約時にホームの方針が説明され、家族の意向も把握されている。重度化した場合の看取りについても、希望されれば対応できる体制をとられており、職員の研修も実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、迅速に行動できる仕組みを構築している。また研修会への参加も積極的に実施し、実践に強いスキルを身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成し、迅速に行動できる仕組みを構築している。また研修会への参加も積極的に実施し、実践に強いスキルを身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特に消防、警察、近隣住民との協力体制を構築している。定期的に訓練を開催し、技術を身に付けている。	特に消防、警察、近隣住民との協力体制を構築している。定期的に訓練を開催し、技術を身に付けている。	運営推進会議を通じ、近隣住民を含めた連絡網が作られ、協力体制も取られている。夜間想定避難訓練も実施され、その他の災害に対しても、避難場所を確認する等、対策をとられている。	

自己	外部	項目	自己評価(北苑)	自己評価(南苑)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の確保は基本的な事項であることを職員は深く理解している。プライバシーの保護についてもチェック体制が整っている。	入居者様の性格や誇りを傷つけないように心がけ、対応にあたっている。職員は意識高くケアにあたっている。	『言葉の乱れは介護の乱れ』をモットーにしたケアに努められている。入居者の尊厳と誇りを尊重し、プライバシーにも配慮した対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望、要望に対して最大限答えられる体制で対応している。選択肢を表し、自己決定ができるように支援している。	希望、要望に対して最大限答えられる体制で対応している。選択肢を表し、自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位のサービスが実践できるようにケアの在り方を検討し、必要があれば作業手順の見直しも視野に希望に沿った支援を行っている。	「自分らしい生活」を提供できるように常に情報収集に努め、表情や行動を観察し希望に沿った生活なのか全職員で検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向や趣向といったものを尊重することはもちろんのこと、季節に応じた衣類、来訪者や外出時の適切な身だしなみが実践できている。	自己選択を第一に見出しなみの支援を実践している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施し入居者様にあった食事の提供に努めている。また個人の力量に応じて家事手伝いや調理への参加を積極的に行っている。	嗜好調査を実施し入居者様にあった食事の提供に努めている。また個人の力量に応じて家事手伝いや調理への参加を積極的に行っている。	入居者の嗜好品を考慮しながら献立が考えられている。また、食事が話題のきっかけ作りとなるような取り組みも実施され、如何に食事を楽しむか日々工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量はチェック表にて管理し、状況の把握は出来ている。また好みに合わせ臨機応変に対応できる仕組みを構築し、対応にあたっている。	食事、水分摂取量はチェック表にて管理し、状況の把握は出来ている。また好みに合わせ臨機応変に対応できる仕組みを構築し、対応にあたっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施。自立されてある方に関しては確認を毎回徹底している。また必要があれば協力医療機関の歯科へ受診しているケースもある。	毎食後に口腔ケアを実施。自立されてある方に関しては確認を毎回徹底している。また必要があれば協力医療機関の歯科へ受診しているケースもある。		

自己	外部	項目	自己評価(北苑)	自己評価(南苑)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンはそれぞれ異なることを理解し、チェック表にて記録。それを活かし、排泄ケアにあっている。	排泄のパターンはそれぞれ異なることを理解し、チェック表にて記録。それを活かし、排泄ケアにあっている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握しトイレへの誘導が行われている。夜間も”熟睡の時間”をいかに作るかを意識しながら、状態に応じた適切な排泄の支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材、乳製品等を取り入れつつ、食事、水分摂取量を管理、把握し必要に応じて便秘薬、坐薬、腹部マッサージ等を看護師と相談しながら実施している。	食物繊維の多い食材、乳製品等を取り入れつつ、食事、水分摂取量を管理、把握し必要に応じて便秘薬、坐薬、腹部マッサージ等を看護師と相談しながら実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の希望に沿い、いつでも入浴していただける体制を構築している。	ご本人様の希望に沿い、いつでも入浴していただける体制を構築している。	入浴は午前中に実施されているが、希望に応じ午後、夜間の入浴にも対応されており、毎日の入浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調管理、バイタル測定等にて常に状態観察に努めている。体力面を考慮し、ご本人様と相談しながら休息の時間、睡眠について支援している。	体調管理、バイタル測定等にて常に状態観察に努めている。体力面を考慮し、ご本人様と相談しながら休息の時間、睡眠について支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイリングし、いつでも確認できる体制を構築している。また薬の管理、服薬支援はチェック体制を確立し、安全性を向上している。	薬の情報をファイリングし、いつでも確認できる体制を構築している。また薬の管理、服薬支援はチェック体制を確立し、安全性を向上している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせた役割を創出し、張り合いのある背かつがあ送れるように支援している。また行事や外出支援、個別対応での支援と環境整備が行えている。	個人に合わせた役割を創出し、張り合いのある背かつがあ送れるように支援している。また行事や外出支援、個別対応での支援と環境整備が行えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調面によってばらつきはあるが、定期的な行事(外出含め)計画性を持って支援している。また個別対応できる仕組みを構築しているので把握ができ対応している。	天候や体調面によってばらつきはあるが、定期的な行事(外出含め)計画性を持って支援している。また個別対応できる仕組みを構築しているので把握ができ対応している。	ホーム周辺の散歩、買い物、夕食、花見や自宅への外出支援等、一人ひとりの希望に添って、出かけられるよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価(北苑)	自己評価(南苑)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて対応。買い物や神社、お寺にお参りに行く際など所持したり使用したりすることができている。	個人の能力に応じて対応。買い物や神社、お寺にお参りに行く際など所持したり使用したりすることができている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙といった通信に関しては基本的な人権であることを理解し、必要な支援は行えている。	電話や手紙といった通信に関しては基本的な人権であることを理解し、必要な支援は行えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症ケアを理解し、ハード面は工夫し不快感や刺激を与えないように配慮されている。	認知症ケアを理解し、ハード面は工夫し不快感や刺激を与えないように配慮されている。	明るい雰囲気、室内に流れる音楽や香り、職員の声の高さ等にも気を配り、入居者が居心地よく過ごせるよう工夫されている。また、壁飾りや生け花等、季節が自ずと感じられるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の空間として居室は捉えており、思い思いに過ごしていただけるよう環境整備している。	それぞれの居室で気の合う仲間でお茶を交わしたり、交流が持てたりと環境は整っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の意向を考慮し、今まで使用してきた家具や装飾品を持ち込んでいただき心地よく過ごせるよう工夫している。	ご本人、ご家族の意向を考慮し、今まで使用してきた家具や装飾品を持ち込んでいただき心地よく過ごせるよう工夫している。	使い慣れた家具などが持ち込まれており、家族の写真が飾られる等、入居者一人ひとりが安心して気持ちよく暮らせるよう、配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状態に応じて自立した生活空間の提供を心がけている。安全面では常に見守り支援を整備し、日々改善点がないか模索し向上に努めている。	状態に応じて自立した生活空間の提供を心がけている。安全面では常に見守り支援を整備し、日々改善点がないか模索し向上に努めている。		